

ベルの会 親同士の結婚支援活動趣旨

令和2年3月吉日

現代は、結婚に対する状況が昔とかなり違っています。

女性は必ずしも男性を頼って生きていなくてもよい時代、結婚してもいいし、しなくてもいい、どちらでも選べる世の中になりました。『それでも、いい人がいれば結婚したい、いずれは結婚したい、と考えている人がほとんどです。』

若い時は、「結婚なんてしてもしなくてもどちらでもいい」と思っていた人でも年齢を重ねるとある日突然結婚したくなったり、子供が欲しくなったりするものです。そんなときお相手がすぐ見つかるかどうかはわかりません。

自分が結婚する気になれば、また、ちょっと努力さえすればすぐにでもその思いが叶うと思っている楽観的な方が大勢いらっしゃいます。

理想的な結婚、それは、幾らお金を積んでも、また、いかにご自身だけで努力しても必ず叶えられと言うものではありません。

結婚を無駄に先に延ばして、親も本人も、そのうち、そのうちと、言っているとすぐにお相手を見つけるのが難しい年齢になってしまいます。

ですから親御さんは、お子さんに付き合っのんびり構えてはいけません。

『お子さんに結婚への意識を持ってもらうのに、早すぎることも、遅すぎることもありません。特に親元を離れて一人暮らしをされているお子様がいらしたら一日伸ばしにせず‘是非’今日から結婚について一刻も早く考えるよう後押しをしましょう。また、若い方には結婚にある程度計画性を持たせるためにも自分の人生設計を持っていただきたいものです。』

結婚事情が昔と様変わりしたかに見える現代でも、結婚適齢期というものは確実に存在します。昔であれば、娘さん、息子さんを腫れものに触るように気を使うのではなく、もっとおおらかにご親戚、お知り合い、先輩が結婚相手をそれとなく紹介したり、独身者が集まるような場所に連れ出してやったりしたものでした。しかし今日では、便利な世の中になりましたが人間関係が複雑になったからでしょうか、紹介したい気持ちはあっても、それが上手く行ったときはいいけど、破談になったり、後々離婚になったりしたらいやだなという思いが働き、またお相手の個人情報をごどこまで聞いたらいいいのか等、昔だったら気にしなかったような事も気にするような社会になったおかげで、誰もお世話をしたがるなくなりました。

私共は、そうした現実の問題に直面している方々の「結婚支援問題」を大勢の親御様及び結婚のお相手さがしを頼まれている方々とご一緒に手を携えて、解決してゆくためのお手伝いをさせていただいております。

【縁結び ベルの会 グループ 結婚活動支援事務局】